



文庫 8
C.501(2)

摘華新聞第七號

○社説

明君ノ治務ヲ觀ルニ先ツ形ヲ定メテ而后チ勢ヲ以テ制セ
 スンバアララス頼朝ノ覇府ヲ鎌倉ニ創立スルヤ唯一世ヲ籠
 絡セシノミナラヌ施テ下徳川氏ニ及フ其基業豈偶然ナラ
 シヤ大江廣元ノ策ヲ用ヒテ所在殘黨ヲ追捕スルノ名ニ托
 シテ六十六國ニ守護地頭ヲ置キ以テ己ノ爪牙ヲ充テ己ノ
 之ヲ統轄シテ日本總追捕ト稱シ天下ノ權柄ヲ掌握ス是ヲ
 以テ天下事有レハ直チニ命令ヲ下シ縱發指示己カ意ノ如
 シナラザルナシ默シテ朝廷ノ權ヲ奪ヒ天子ノ行フ所ヲ行
 ヒ其爲ス所ヲ爲ス實ニ其術ヲ得タリト謂フ可シ是レ他ナ
 シ先ツ六十六國ニ守護地頭ヲ置ノ形ト己ノ爪牙ヲ充テ縱

發指令スルノ勢ヲ制スレバナリ若シ其形ヲ定メテ羽翼已
 ニ成リ其勢ニ從テ縱發指令スルニ有ラサレハ曠世ノ英傑
 ナル賴朝ト雖ト突然山東ニ起リ坐ナカラ六十六國ヲ治ム
 ルヲ掌ヲ指スガ如ク豈容易ナランヤ
 抑維新以來吾邦ノ形ト勢トヲ觀ルニ各州ニ知縣ヲ基布シ
 テ民政ヲ司リ鎮臺ヲ各方ニ設置シテ不虞ニ備ヘ命令一々
 ヒ陛階ノ間ニ傳フレハ瞬息萬里ノ傳機ヲ以テ縱發指令意
 ノ如クナラサルナシ是レ亦善ク形ヲ定メ勢ヲ制シタリト
 謂フ可シ而シテ人民ノ智識ニ至リテハ元來無形ニ屬シテ甚
 タ制シ易カラス殊ニ歐學ノ我國ニ入ルヤ俄ニ人民ノ思想
 ナ一變シテ智識ヲシテ大ニ開達セシメタリ人智開達スレ
 ハ政府モ亦從ツテ適應シタル制度ヲ設ケサル可カラズ是

ナ以テ昨年地方官會議ヲ開キ且ツ村會區會縣會ノ設アリ
 能ク人民ノ進歩ニ適應スト謂フ可シ以前ニ有テハ人民ノ
 大象舉ツテ事ヲ議スレハ其議長ハ大概罪ニ處セラレシモ
 今ハ公然會議ノ名稱ヲ以テ免ルサレタリ少シク人民ノ自
 由ヲ得テ形勢少シク變シタリト謂フ可シ人民少シク自由
 ナ得レハ政府モ亦人民ニ而已自由ヲ與エテ自己ノ權威ヲ
 削弱スルヲ欲セサルハ固ヨリ論ヲ待タサレハ暗ニ策ヲ運
 ラシテ之カ處置ヲ爲シ彼ノ賴朝カ王政ノ後ヲ受ケ專ラ王
 家ノ權ヲ剝奪スルヲ以テ勉メトナシ殘黨捕縛ニ托シテ六
 十餘州ノ全權ヲ掌握シタルカ如ク爲サ、ル可カラズ然カ
 ルニ方今人民ノ才智大ニ進歩シテ以前ノ人民ニ非ス此勢
 ナ以テ進歩セハ必ラス政府ノ上ニ出ツ可シ政府ノ上ニ出

ツレハ毎度政府ノ策謀ヲ發見シテ其術數ヲシテ行フイナ
得サラシメ勢ヒ宇内ノ形勢ナ一變シテ政度ヲ革易セサレ
ハ人民必ス政府ニ服從セス苟モ政度ヲ革易スレハ何レノ
點ニ緣ルカ預メ確定ス可カラスト雖モ人民ノ智識ト企望
トニ從ヘハ既ニ基シタル村會區會縣會ヲ擴張シテ民撰議
院ヲ設立スルニ至ル可シ若シ民撰議院ヲ設立スレハ必ラ
ス政府ノ權ヲ剝奪セラル、ナ知リ預メ暗ニ黨與ヲ用ヒテ
民權ヲ黙取スルノ策ヲ爲シ而ル后ヲ陽ニ人民ノ企望ニ隨
テ民撰議院ヲ建設シ民撰議院ヲ建設スト雖モ其權常ニ政
府ノ手ニ有ルヲ欲スルニ非サルヲ知ラシヤ頃日ノ新聞ト
道路ノ風説トニ注意セヨ吾輩カ聞ク所ニ據レハ縣令ハ
十有二年ヲ以テ一期ト爲シ一期滿任シテ退職スル者ハ十

倍ノ月給ヲ與ヘテ其地ノ戶籍ニ編入スト夫レ縣令ノ月給
タル一ヶ月三百圓ナレハ之ニ十倍ヲ乘スレハ三千圓トナ
ル三千圓ノ金貨ハ通國上等人民ノ資産ニシテ權力最モ強
キ者ナリ且ツ十有二年間廢黜セラレステ該地ニ在リテ
人民ノ代理タレハ多少必ラス人民ノ德望ヲ收有シテ國家
ニ功勞アリト見做スモ其理ナキニ非ス是ヲ以テ後日民撰
議院ヲ開ラカハ其撰舉サル可キ人ハ必ラス此人ヲ捨テ誰
ソト想像スルモ亦其理ナキニ非ス豈政府民撰議院ヲ興起
スルノ機會ヲ窺ツテ平日恩愛ヲ施與シタル己ノ奴隸ヲ以
テ議員ニ撰マセ其名ハ民撰議院ト雖モ其實ハ官撰議院ニ
シテ即チ昨年ノ地方官會議ノ如キヲ欲スルニ非サルヲ
知ラシヤ嗚呼政府モ亦大江廣元ニ乏シカラスト謂フ可シ

若シ此術中ニ陷溺セラレテ出ルヲ知ラサレハ北條足利陸
續トシテ出ルモ知ル可カラス吾邦ノ人民ヨ此冥々中ニ蒔
種シタル策謀ヲ發見セスシテ民撰議院ヲ開クニ及ヒテ無
暗ニ撰擧ヲ爲サハ永ク平家ノ殘黨カ或ハ其時ノ朝廷トナ
リ數百年ノ間艱難ノ苦域ヲ脱スルヲ能ハサル可シ

○

嚮日御還幸ノ際隨從ノ諸臣參議大久保氏ノ邸内ニ於テ祝
酒ヲ催フサレシカ酒酣ニ大久保氏突然席ヲ立テ何思ヘケ
ム列坐シタル諸氏ノ頭上ニ拳的一個ツ、ナ與ヘテ廻リシ
ガ一人此無禮ヲ咎ムル者ナキニ外務省ノ四等出仕某氏ト
カ勃然トシテ大ニ憤激シ直ニ其側ニ在タル烟草盆ヲ採
ツテ返禮ナリト言ナカラ大久保氏ノ頭ヲ二ツ三ツ續打ニ

致セシ故席上大ニ雜沓シテ議論囂々タリシカ終ニ前島氏
ノ中裁コテ漸ク其席ヲ鎮靜シタリト云フ風説アリ

評曰ク嗚呼勇猛ナル哉公也楚ノ項王我國ノ信長ト雖モ
若シ公ニ逢フキハ三舍ヲ避ケテ退讓セサルヲ得ス項羽
鴻門ノ會ニ樊噲ノ壯勇ニ讓リ酒肉ヲ與ヘテ彼レニ謝シ
タリ公ハ滿坐ノ高官ニ拳的ヲ與ヘテ廻ルニ激スル者只
一人ナリ然レモ公ノ威ヲ畏レテ服ス信長ノ光秀ニ於ル
彼レ君ニシテ臣ヲ打ツモ尙ホ弑逆ノ難ヲ免レス公ハ只
頭上ヲ二ツ三ツ毆打セラル、ノミ嗚呼公ノ勇猛宇宙ノ
間ニ於テ比ス可キ者誰ソ未ダ嘗テ見サル所ナリ又滿坐
ノ諸氏ノ如キハ寬洪德量アル君子ト謂フ可シ己カ頭上
ヲ毆打セラレ痛ヲ堪ヘテ黙容シ一點ノ怒色ヲ現出セス

斯ノ如クニ非サレハ當路ニ在テ人民ノ上ニ立ツコ能ハ
 サル可シ
 評曰ク大久保公ノ人トナリ慷慨雄偉天下ヲ經營シ國家
 ナ統御スルノ才ニ乏シカラサルナリ是ヲ以テ維新ノ際
 西郷木戸ノ二公等ト與ニ首トシテ勤王ノ大義ヲ唱ヘ東
 奔西馳奇計ヲ出シ妙策ヲ畫シ遂ニ能ク幕府ヲ顛覆シテ
 王室ノ頽勢ヲ挽回シ閩國人民因テ以テ奎運隆盛ノ今日
 ニ邂逅スルヲ得タリ其ノ國家ニ勳功アル實ニ莫大ナリ
 ト謂フヘシ豈ニ尋常一樣ノ士ヲ以テ論ス可ケンヤ然ル
 ニ今該風説ニ云フ所ニ據レハ放縱沈湎酒ニ酗シテ禮容
 ナ忘レ妄ニ人頭ヲ拳打シ九尺二間ノ熊公カ爲スチ耻ル
 所ヲ爲スナリ嗚呼大久保公ニシテ豈ニ斯ノ如キノ醜行

ヲ爲スコアラシヤ余公ノ爲ニ歎一歎セサルヲ得ス
 評曰ク此風説カ虛妄ナレハ格別眞事ナラ早速寫眞屋ヲ
 頼ミテ其様子ヲ寫シ取り大勢ノ兄弟ノ龜鑑ニ致シ且ツ
 酒ヲ呑ンタ時ハ如何ヤフナカ有ツテモ宜シイト書テ
 置タカツタケレハ賭碁ヤ博奕ハマダナリマスマイ

○

去ル日大臣岩倉公ノ邸内ニ於テ華族方ガ集會ヲ催フシ前
 途生計ノ方法ヲ議セラレタル由
 評曰ク余友人ニ聞ク云ク春來華族議院ヲ設立シ屢々集
 會ヲナスト雖也必竟無用ノ剩物ニ屬シ只無益ノ浪費ヲ
 増加スルノミ所以者何ントナレバ方今我國ニ於テ國運
 ナ杞憂スル者ハ惟ダ新聞記者ニ非ザレバ文人學士ナリ

而ルニ華族ニ至テハ國運ヲ杞憂スル文人學士甚々多キ
ヲ聞カサレバナリ余以爲ラシク否ラス夫レ華族ハ其身君
民ノ間ニ位ヲ占メ恰モ英國ノ貴族ノ如ク上ハ皇帝陛
下ノ深キ御仁慮ヲ推尊シ下ハ下民ノ情態ヲ洞察シ上下
情意ヲ通達セシムル所ノ議院ヲ設立セシ者ナレバ英國
上院ニ比擬シテ可ナリ已ニ英國上院ニ比擬シタル議院
ヲ設立セシ以上ハ當今ノ事情ニ通曉シ國家ノ爲ニ害ヲ
除キ冗ヲ省クハ勿論尸位坐食スルハ天理ニ違背スル位
ノ一ハ言フニ及バズ百迄五承知ト思ノ外此度祿券一條
ニ付テ周章狼狽シテ前途生計ノ方法ヲ議セラルト聞
キ初テ友人ノ説ノ是ナルト吾カ思想ノ非ナルヲ知レリ
夫レ上下ニ對シテ其義務ヲ盡ス可キ大任ヲ負擔シタル

華族ナレバ衆ニ先ツテ其標目トナリ只予ガ馬首是レ看
ヨデコソ然ル可キニ祿券ノ一條モ豫メ注意セズ安閑
然ト居眠リヲ爲シ祿券ガ定ツテ俄ニ目ガ覺メ眉毛ニ火
デモ付タヤフニ會議ヲ爲ストカ何トカ華トカ嗚呼々々
政府ノ五英斷モ宜ナル哉

評曰ク百万度集會シテモ習ラハヌトハ分リマセンカラ
五集會杯無益ノ事ハオ止メニ爲サツタ方ガ宜シウ五坐
リマセフ會話篇ヤリドルヤ大學ヤ中庸ノ中コハ前途
生計ノ方法杯云フハ書テアリマスマイ
評曰ク是レ迄日々偷安ノ晝寢ヲ撞覺セラレタル俄ノ會
議ナレバ定テ周章狼狽シテ家令家扶ヲ廢サフトカ或ハ
馬車ノ劇場行ヲ止ントカ或ハ藝妓ヲ以從シテ青樓ニ登

ルチ廢ントカ何ハ廢シテモ權妻ハ廢セヌトカ家族ガ澤
 山デ活計ガ立ナイノ慣レナイカラ人力車ハ挽ケナイ位
 ノ發言ハ隨分出來マセフガ憤發シテ無權利ノ祿ヲ取ル
 可キ道理無キ故速ニ返上デハナク青菜ニ鹽デ兀然トシ
 テ噤口シタル先生方モ大方有ル可シ其レデモ結構先祖
 ノ餘澤ガ三十年間是等ヲ殘ラズ沒収セラレタ其マタア
 ゲクニ華族ノ厄介ニシテ集メテ北海道ヘサラトリトデ
 モ言ハレタラ大變

社 主 金元玉順
 編輯長 有吉志一
 印刷 竹内拙三

東京淺草榮久町三十五番地
本局 參觀 舍

- 東京兩國藥研堀町三十八番地
- 印刷所 報知社
- 同 淺草元鳥越町廿一番地
- 賣捌所 共致社
- 同 日本橋青物町三番地
- 同 日本橋青物町三番地 堂
- 同 神田美土代町四丁目五番地
- 同 神田美土代町四丁目五番地 橋屋作太郎
- 同 赤坂裏壹丁目十六番地
- 同 赤坂裏壹丁目十六番地 赤川五兵衛
- 同 淺草田島町
- 賣弘所 至田幸三
- 同 八形町通元大坂町
- 同 八形町通元大坂町 法木徳兵衛
- 同 琴平町
- 同 琴平町 靜霞堂

